

西伯病院 院長 木村 修 きむら おさむ

「早期発見・早期治療で 南部町のがん撲滅を目指します」

西伯病院に新しく就任された木村院長に、新体制の抱負、がん検診への取り組みなどについてお聞きしました。



昭和52年 鳥取大学医学部 卒業
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医
【専門領域】
消化器外科 (特に大腸外科)、大腸癌化学療法
肛門外科 (特に痔核治療)、ストーマケア

— 南部町と西伯病院の印象はいかがですか

私は花を観るのが好きなので、春には妻と愛犬を連れて桜を観に参りますし、花回廊にも年に数回参ります。そのようなこともあって、南部町は『花の町』というイメージがありました。

着任後は毎日の通勤、診療等を通じて、南部町の方々のやさしさ、当院を大切にしておられる皆様の気持ちを強く感じております。

病院に關しましては、これほど住民の方々、職員の熱い思いが詰まった素晴らしい病院は他にないと確信しております。何度かテレビの取材を受け病院のご紹介に院内を回りましたが、細かいところまで工夫が凝らされ、ホテルのような病院と感しております。また職員も熱心に、はつらつと働いており感銘を受けております。南部町ならびに西伯病院がもっと素晴らしくなるように、微力ではありますがありますが頑張りたいと思っております。

— 木村院長の西伯病院での目標を教えてください

私は長らく癌を相手に手術、化学療法に携わってききましたので、癌で苦しめる方々を多くみてきました。そのため癌を早期に発見し、早期に治療できるような、南部町の方々のがん検診に力を入れて行きたいと考えております。

どの癌でも同様ですが、検診で発見された癌のほとんどは完全に治られますが、自覚症状があり発見された癌の半数は再発等で亡くなられます。検診で発見される癌が症状を来すまでには数年かかると考えられますので、当然の結果なのです。

病院ならびに南部町の皆様の中に早く溶け込み、病院の経営改善に努めたいと考えております。

— 南部町から癌を撲滅することですが、その方策としてどのようなことを考えておられますか？

まず、がん検診の推進です。今年度ですでに受診券の送付が終了しておりますので、その受診状況を見守りたいと考えております。同時にケーブルテレビ等を通じてがん検診の重要性をご説明し始めておりますし、今後も町長様との討論会、各地区での講演会を予定しております。



西伯病院の理念「地域住民への安心の提供」の実現を目指します

また行政の力をお借りして、健康管理センターの保健師のご協力、病院専属の保健師の雇用、ならびに検診受診者に対する国保税の減額を盛り込んだ町条例の作成もお願いできればと考えております。さらに秋以降、未受診者に対する、第二弾の受診勧奨を検診の啓発を目的としたパンフレットを作成し、健康増進委員、保健事業団のご協力もいただきながら行いたいと思っております。

また、今年度も西伯病院では、平日検診が受けられない方のために続けてきた「休日検診」を、乳がん検診を3回、胃がんと大腸がん検診を4回行います。

このように2段、3段の構えで南部町のがん検診を推進し、癌を早期に発見、治療することで癌の撲滅を図りたいと熱望しております。

南部町、西伯病院の皆様のご協力を何卒、よろしくお願い申し上げます。